

虫垂炎（俗にいう「もうちょう」）の治療

外科 石井 孝明

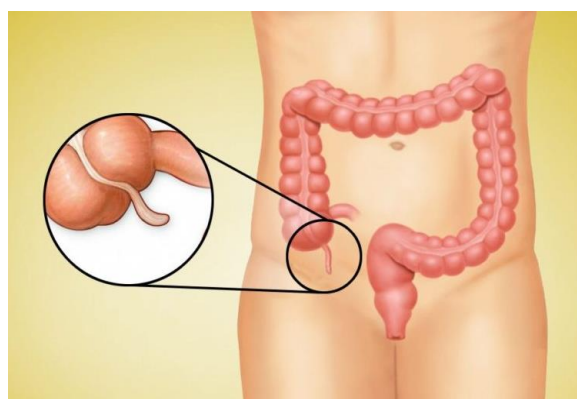
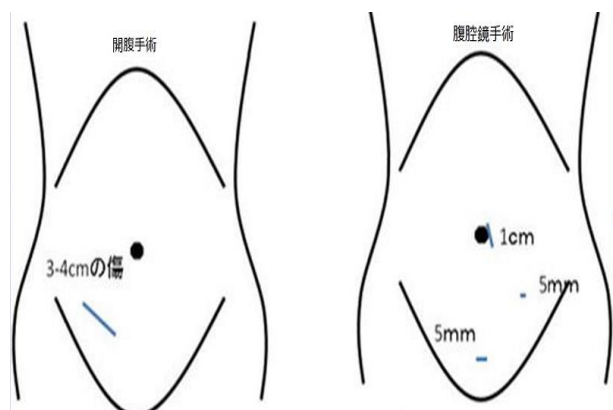


虫垂は右下腹部にあり、大腸から突出した細長い管腔です。この虫垂に炎症を起こすのが虫垂炎です。虫垂炎の治療は必ずしも「緊急」手術ではありません。

まず抗菌薬による保存的治療で炎症を鎮静化、その後に手術を行う「待機的」虫垂切除の概念が普及しました。「待機的」手術の目的は、合併症や拡大手術を回避することです。

複雑性虫垂炎（壊疽・穿孔など）の「緊急」手術では、合併症や拡大手術を要することが多くなります。抗菌薬による保存的治療で炎症や腹腔内癒着が軽減し、腹腔鏡下虫垂切除が容易になることも期待されます。腹腔鏡手術は開腹手術より傷が小さいので、目立ちにくく美容に優れ、術後の痛みが軽いです。

つまり「待機的」虫垂切除は、合併症や拡大手術の回避、腹腔鏡手術の選択が期待されるので、体への負担が小さい手術が可能となるのです。



 医療法人社団 開田会 **ときわ病院**
〒673-0541 三木市志染町広野5丁目271
TEL : 0794-85-2304 (代表)
0794-85-2578 (地域連携センター直通)
FAX : 0794-85-3868 (代表)
0794-89-8816 (地域連携センター直通)
E-mail : info@tokiwa-hospital.or.jp
URL : <http://www.tokiwa-hospital.or.jp>


交通アクセス
・神戸電鉄 粟生線 広野コルフ堀前駅より、徒歩で約2分
・神戸市営地下鉄 西神中央駅より、車で約15分

新職員の紹介



歯科からの『ちょっといいはなし』



眠っている間に抜歯ができるってほんとですか？…鎮静法について

歯科口腔外科部長 足立了平

歯の治療、とりわけ親知らずなどの抜歯は、ご本人にとってはユウウツなものです。できれば知らないうちに終わってくれないかなと思いますよね。緊張したり痛みを我慢したりすると血圧や脈拍が上昇して、時には胸痛などの症状が出ることもあります。

ときわ病院では抜歯などの歯科治療を安全に、しかも快適に受けることができるように工夫を重ねています。近年、胃の内視鏡検査(胃カメラ)では鎮静薬を使用して以前の様にえづきながらの検査はほとんどなくなり快適に検査ができるようになってきました。ときわ病院歯科口腔外科では13年前の開設以来、この方法を利用して眠っている間に抜歯を行う「鎮静法」を実施しています。特に骨に埋まった親知らず抜歯の場合にはほとんどの方が希望されるため、今では年間1000例近くの方に実施しています。

方法は、点滴のルートを取り、そこから鎮静薬を注入します。数秒で眠気を自覚しそのまま眠ってしまいます。全身麻酔の様に完全に意識がなくなるわけではありませんので、口を開けるなどの指示に応じることができます。もちろん、入院の必要はなく日帰りのできる安全な処置です。

高血圧の方は薬で調節されていても緊張すると血圧が上昇しますが、寝てしまうと低い数値に戻ります。歯ぐきに麻酔の注射をしたことすら覚えておらず痛みを感じていないので快適に治療が受けられているようです。また、鎮痛剤や腫れ止めの薬も点滴ルートから注入できますので術後の痛みも少なくなります。

昔から歯科は「痛い、怖い」という負のイメージが強かったのですが、医療の進歩はこんな風評も吹き飛ばしてくれるようになりました。

<このコラムは、ずんどこ通信今季号から始まりました。ときわ病院歯科口腔外科から皆さんに「ちょっとためになるいい話」(略して“ちょいばな”と呼んでください)をお届けします。期待してお待ちください。>